

新型コロナウイルス感染症の影響下における食肉業界の販売動向等

コロナ禍の食肉をめぐる状況

(2021 年 9 月報告)

【 項 目 】

- I 牛豚肉の部分肉価格の動向
- II 食肉業界の販売状況
- III 食肉需要の動向
- IV 牛肉輸入の動向
- V 牛肉輸出の動向

公益財団法人日本食肉流通センター

情 報 部

2021年9月17日

コロナ禍の食肉をめぐる状況（2021年9月報告）

公益財団法人日本食肉流通センター

当センターにおいて、新型コロナウイルス感染症の拡大にともなって、その影響が国内での食肉業界の販売をめぐる状況にどう影響してきているかを調査してきました。その結果については、2020年8月、12月及び2021年5月にホームページで報告してきました。

前回（2021年5月報告）は、牛肉と豚肉について価格動向に消費支出の動向なども加えた網羅的な内容の報告をしましたが、今回は、その報告をフォローアップする観点から、牛肉を中心に、その後の価格動向や輸入・輸出の動向を追跡調査するとともに、当センターにおいて部分肉取引情報公表委員を務めていただいている食肉事業者への聞き取りなども加えて、最近の状況を報告します。

I 牛豚肉の部分肉価格の動向

前回（5月報告）は、2021年3月までの首都圏における牛・豚の部分肉価格の動向をとりまとめ報告しました。今回は、その後の8月までの価格情報を加え、価格の動きを追跡しました。

なお、ここでは、当センターで月ごとにとりまとめている部分肉価格（消費税込み）のうち重量中央値を用いています。

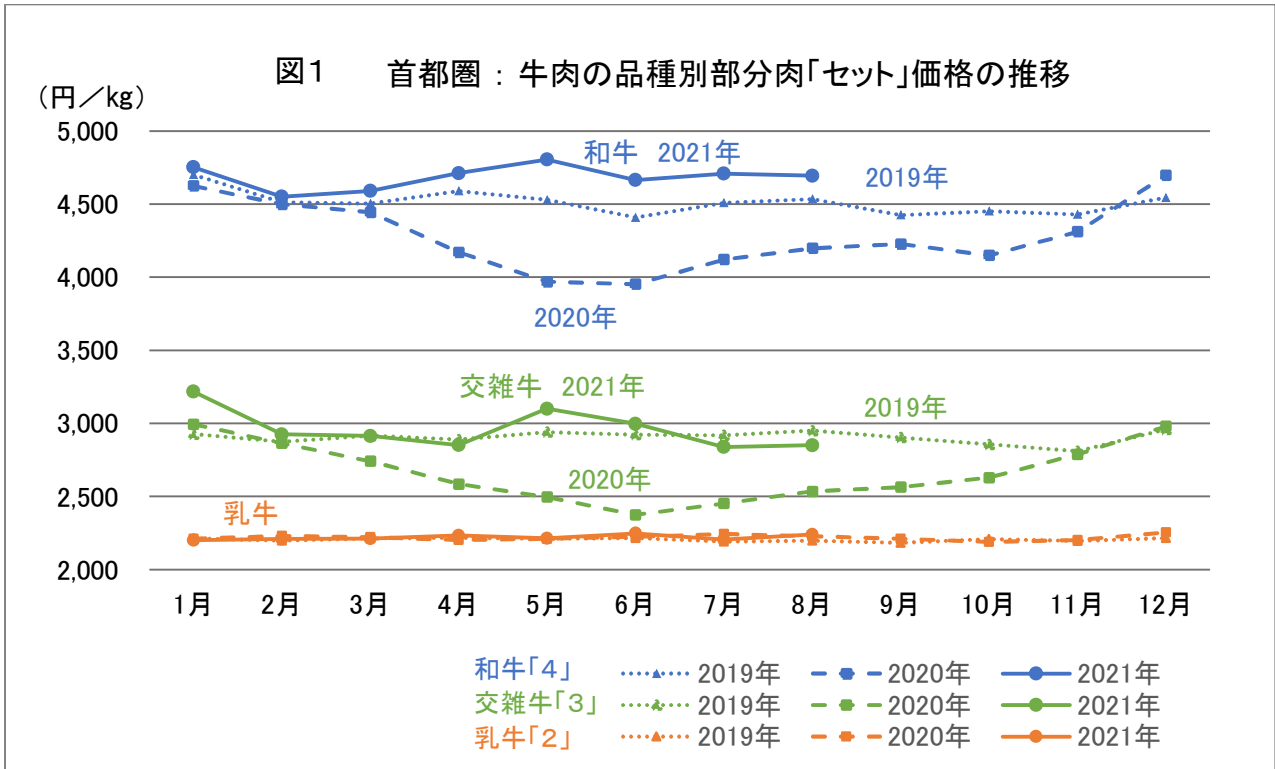
1 首都圏における牛部分肉価格の動向

（1）牛部分肉価格「セット」*の動向

牛部分肉の品種別価格について首都圏の「セット」で見ると、和牛「4」と交雑「3」は2020年にコロナの影響により価格は低下しましたが、同年7月には上昇に転じ、12月にはコロナの影響を受ける直前の2019年同月を上回りました。2021年に入っても、2019年同期を概ね上回る高い価格水準で推移しています。

一方、乳牛「2」のセット価格は、2020年も含め、コロナの影響を受けずに安定して推移しています。（図1）

※「セット」とは、枝肉（丸または半丸）から脱骨・整形加工して生産されるすべての部分肉がセットで取引される単位を言います。



(2) 牛部分肉価格の部位別価格の動向

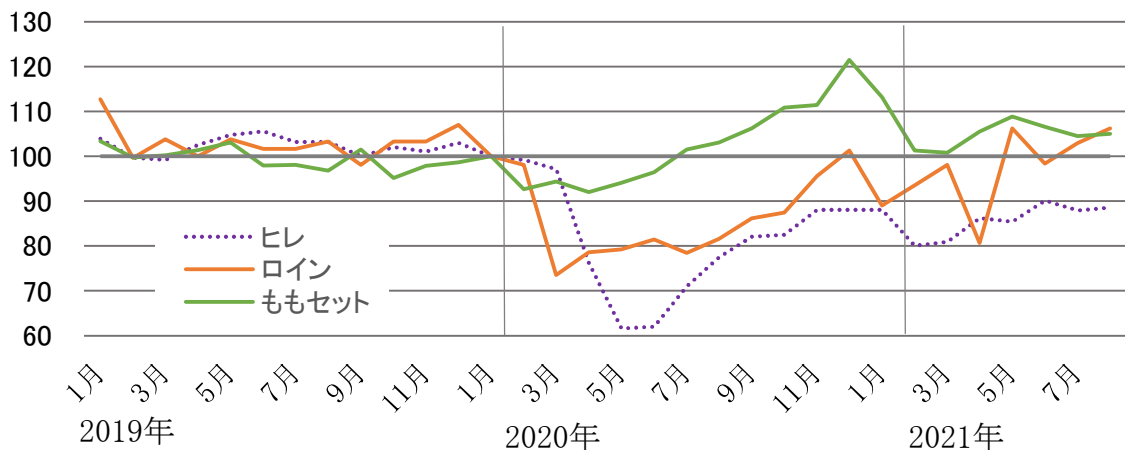
牛部分肉の部位ごとの価格について、ヒレ、ロイン及びももセット※の部分肉価格を用いて、コロナの影響がまだ現れていない2020年1月価格を基準に指数化し、その動きを比較しました。

和牛部分肉について首都圏の和牛チルド「4」で見ると、2020年3月には、特にヒレ、ロインにおいて、コロナの影響を受けて価格が大きく低下しますが、同年5、6月から回復し、同年7月以降はももセットでは指数が100を超えて推移しています。

一方、ヒレとロインではももセットよりも遅れての回復傾向となりますが、特にヒレについては、2021年8月時点でまだ影響から戻っておらず、指数は89となっています。(図2)

※「ももセット」とは、枝肉(丸または半丸)から生産される部分肉のうちもも、しんたま、らんいち、そとももがセットで取引される単位を言います。

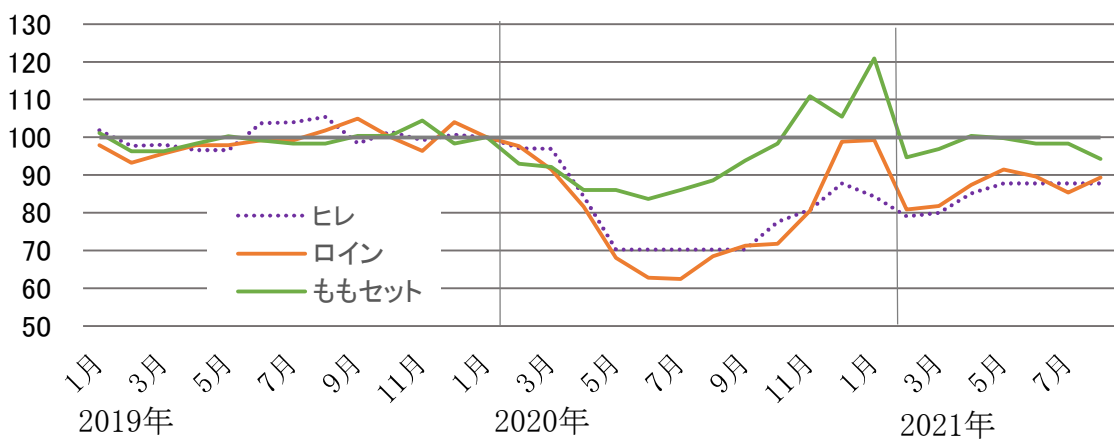
図2 首都圏：和牛チルド「4」 部位別価格指数の推移



注. 価格指数=各月の重量中央値/2020年1月の重量中央値×100

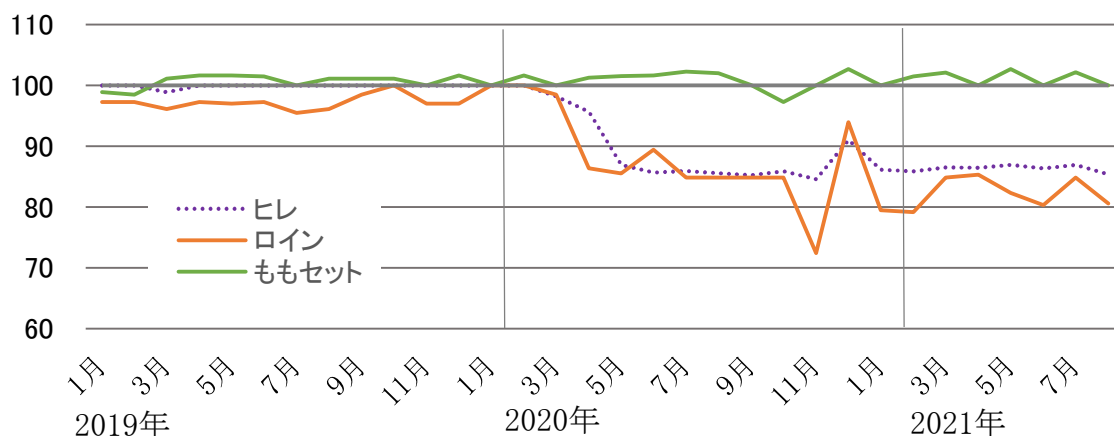
交雑牛「3」と乳牛「2」の価格について同様に指数化して部位別価格の動きを比較してみると、多くの部分肉で2020年前半に低下する和牛と同様の動きが見られますが、乳牛のももセットでは指数が100前後で安定して推移していること、交雑牛及び乳牛のヒレ、ロインで以前の水準（100）まで回復していないこと、特に乳牛のヒレ、ロインでは回復傾向がみられないことなど和牛とは異なる動きがみられます。（図3、図4）

図3 首都圏：交雑牛チルド「3」 部位別価格指数の推移



注. 価格指数=各月の重量中央値/2020年1月の重量中央値×100

図4 首都圏：乳牛チルド「2」 部位別価格指数の推移



注. 価格指数=各月の重量中央値/2020年1月の重量中央値×100

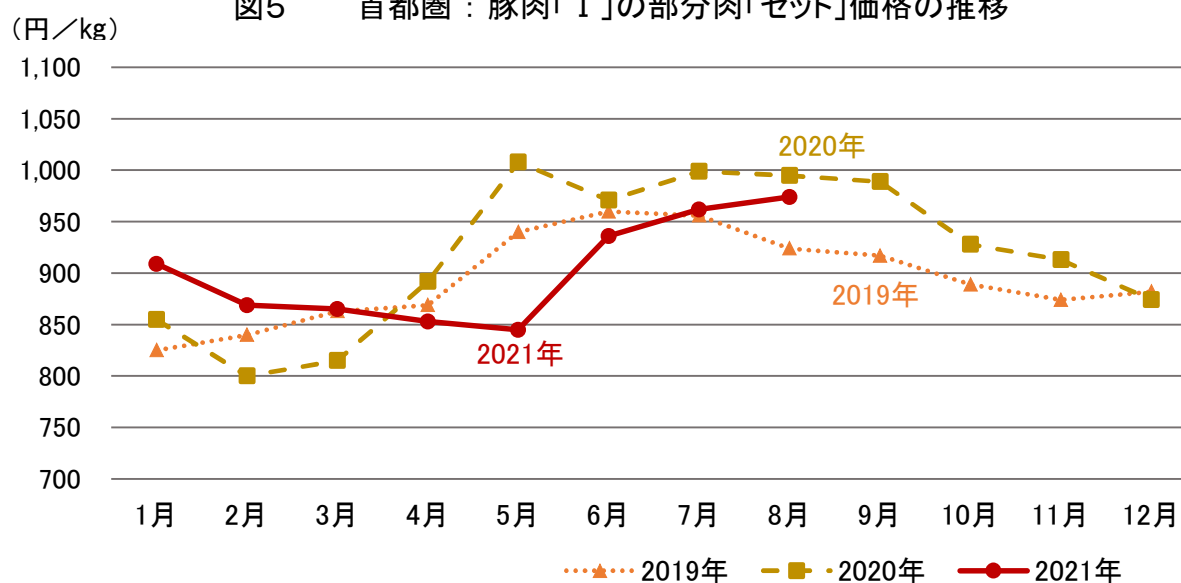
2 首都圏における豚部分肉価格の動向

(1) 豚部分肉価格「セット」の動向

豚部分肉価格の首都圏・「I」※・「セット」をみると、牛肉とは異なり2020年にコロナの影響もあって需要が増大し、価格は概ね前年を上回って推移しました。2021年に入っても概ね堅調に推移しています。(図5)

〔 ※「I」とは、豚枝肉規格が極上及び上から生産された部分肉の等級を言います。 〕

図5 首都圏：豚肉「I」の部分肉「セット」価格の推移

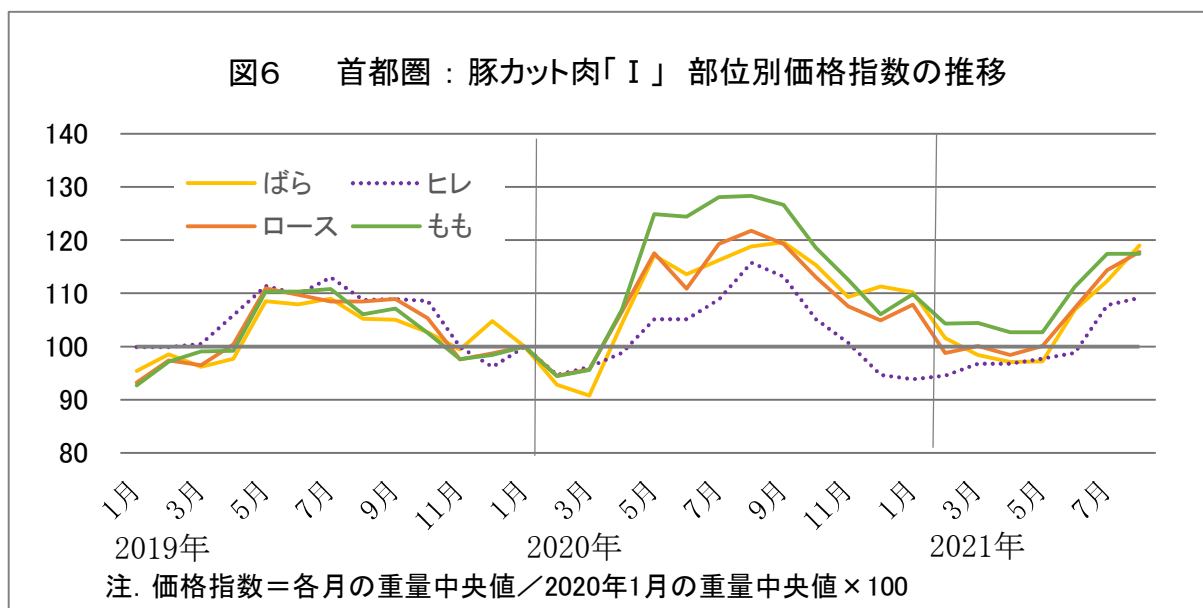


(2) 豚部分肉価格の部位別価格の動向

豚部分肉の部位別価格について、首都圏・「I」のばら、ヒレ、ロイン及びももの価格を用いて、コロナの影響がまだ現れていない2020年1月価格を基準に指数化し、その動きを比較しました。

各部位の価格指数の動き幅に違いはあるものの、各部位とも(1)のセットと同様の動きとなっており、2021年には5月から9月にかけて上昇傾向で推移しています。

部位を比較すると、2020年5月以降、ももが各部位の中で高い指数で推移する一方、ヒレはそれよりも低い指数で推移するなど部位間の指数の差が増大しますが、2021年に入ると差は縮まります。この間、コロナの影響により部位による需要の違いが生じていたのではないかと推測されます。(図6)



Ⅱ 食肉業界の販売状況

2021年7月に当センターの部分肉取引情報公表委員を務めている食肉事業者に対し直近の食肉の販売状況について聴き取りを行いましたので、その概要について紹介します。詳細は、本年9月1日に報告書をホームページにて公表しております。

1 牛肉の販売状況

聴き取りでは、コロナの影響により、「和牛ロイン系を中心として高級価格部位は荷動きが鈍い。」「ネット販売と輸出は増加している。」「焼き肉、居酒屋、高級料亭等の外食は非常に厳しい。」という動きが報告されました。

それ以外に「国内需要が停滞する今は、ロースを冷凍にして輸出用に回している。」など和牛において輸出がロインなど高級部位の国内需給に貢献しているとの報告もありました。これについては、「V 牛肉輸出の動向」の項目において報告します。

2 豚肉の販売状況

豚肉については、牛肉とは逆に「巣ごもり需要で安い部位の家庭内消費が増加している。」「量販店は、単価の安い食材にシフトし、国産豚肉のうで・もも、挽肉材料が不足している。」との報告がありました。

また、惣菜関係は豚肉・鶏肉との関連が強い部門で、一時期、ばら売り自粛などで苦戦していましたが、現在は「自宅での面倒な揚げ物や家飲みのおつまみ向けとして惣菜が伸びている。」との報告もありました。

Ⅲ 食肉需要の動向

1 牛肉の需要（推定出回り量）の動向

牛肉の国内需要量を表す推定出回り量（独立行政法人農畜産業振興機構が需給表で公表）は、コロナの影響が顕著に現れた2020年は前年比98.1%、924千トン、2021年1～7月は前年同期比99.3%、515千トンと前年をわずかに下回る状況が続いています。現状では、牛肉需要についてコロナの影響から回復がみられるという状況にはなっていません。

国産牛肉についてみると、2020年には農林水産省の補助事業によって学校給食への和牛肉利用や新規需要拡大の推進などにより前年比102.2%と前年を上回りますが、2021年1～7月には反動により前年同期比97.7%と前年を下回っています。

輸入牛肉については、2020年は外食等の需要減少などを反映して前年比96.0%と前年を下回り、2021年1～7月は前年同期比100.1%と前年並となっています。

(図7、表1)

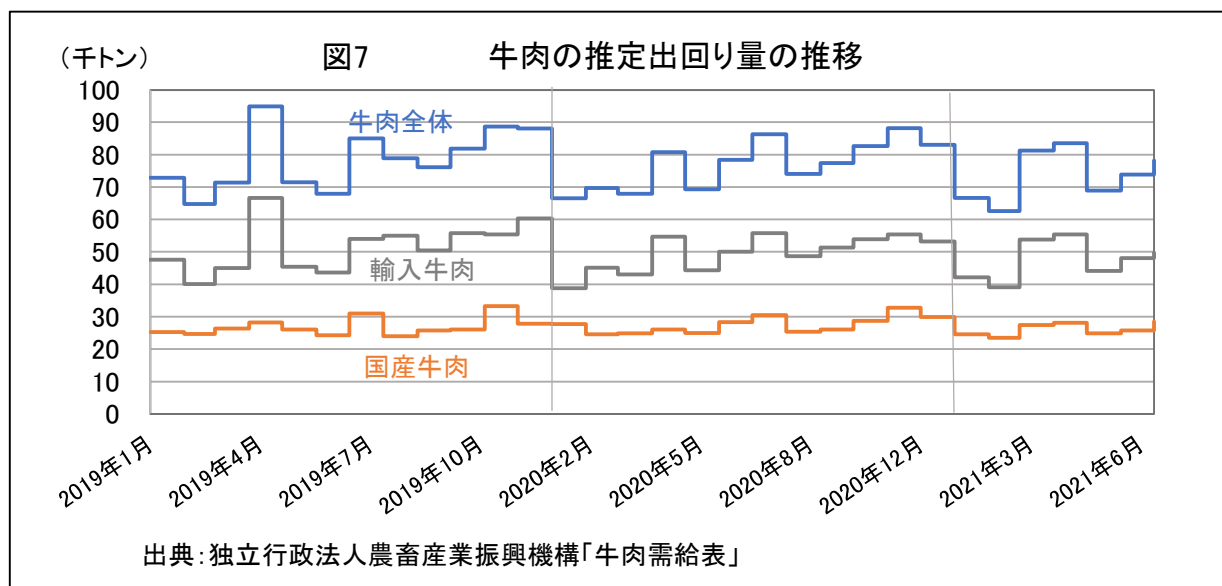


表1 牛肉の推定出回り量

(単位:トン)

	2019年	2020年	2021年1～7月
	推定出回り量	推定出回り量 (前年比)	推定出回り量 (前年1～7月比)
牛肉全体	941,730	923,972 (98.1%)	514,927 (99.3%)
うち国産品	322,654	329,776 (102.2%)	182,680 (97.7%)
うち輸入品	619,076	594,193 (96.0%)	332,246 (100.1%)

出典: 独立行政法人農畜産業振興機構「牛肉需給表」

2 豚肉の需要量(推定出回り量)の動向

豚肉の推定出回り量は、外食が振るわない一方で家庭内の需要が伸びたことにより2020年は前年比100.4%、1,818千トン、2021年1～7月は前年同期比100.6%、1,057千トンと前年をわずかに上回っています。

国産豚肉についてみると、2020年は家庭内需要の伸びから前年比102.3%と前年を上回りますが、2021年1～7月にはその動きも落ち着いて前年同期比100.0%と前年並となっています。

輸入豚肉については、2020年は外食等の需要減少や主要輸出国である米国の食肉工場稼働の低下などを反映して前年比98.6%と前年を下回りましたが、2021年1～7月は、前年の反動や米国の食肉工場稼働の改善により前年同期比101.2%と前年を上回っています。(図8、表2)

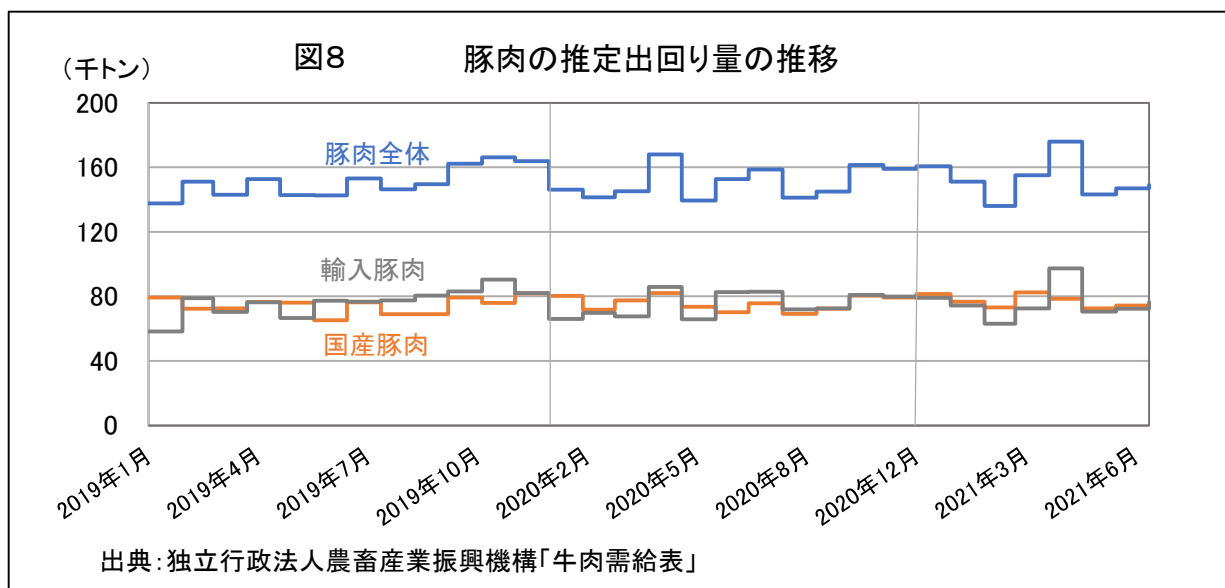


表2 豚肉の推定出回り量

(単位：トン)

	2019年	2020年	2021年1～7月
	推定出回り量	推定出回り量 (前年比)	推定出回り量 (前年1～7月比)
豚肉全体	1,810,689	1,817,830 (100.4%)	1,057,194 (100.6%)
うち国産品	893,029	913,165 (102.3%)	530,483 (100.0%)
うち輸入品	917,660	904,665 (98.6%)	526,711 (101.2%)

出典：独立行政法人農畜産業振興機構「牛肉需給表」

IV 牛肉輸入の動向

1 牛肉の輸入とロイン割合の動向

牛肉の輸入数量は、2020年は前年比97.5%、600千トン、2021年1～7月は前年同期比93.7%、337千トンと前年を下回る状況が続いています。

ロインの輸入数量についてみると、国内でコロナの影響が顕著になる2020年4月から大きく減少しはじめ、2021年に入っても同様の傾向で推移しています（2020年前年比72.6%、2021年1～7月前年比75.7%）。

ロイン以外の輸入数量については、ロインのような大きな減少ではありませんが、前年を下回っています（2020年99.5%、2021年1～7月94.9%）。

この結果、輸入数量におけるロインの割合についてみると、2019年7月には7.8%だったものが、2020年7月に4.5%、2021年7月に4.8%と低下しています。

このような状況から、食肉事業者が指摘する「和牛ロイン系を中心として高級価格部位は荷動きが鈍い。」というコロナの影響は、輸入物のロインにも共通のものとなっていることがわかります。（図9、表3）

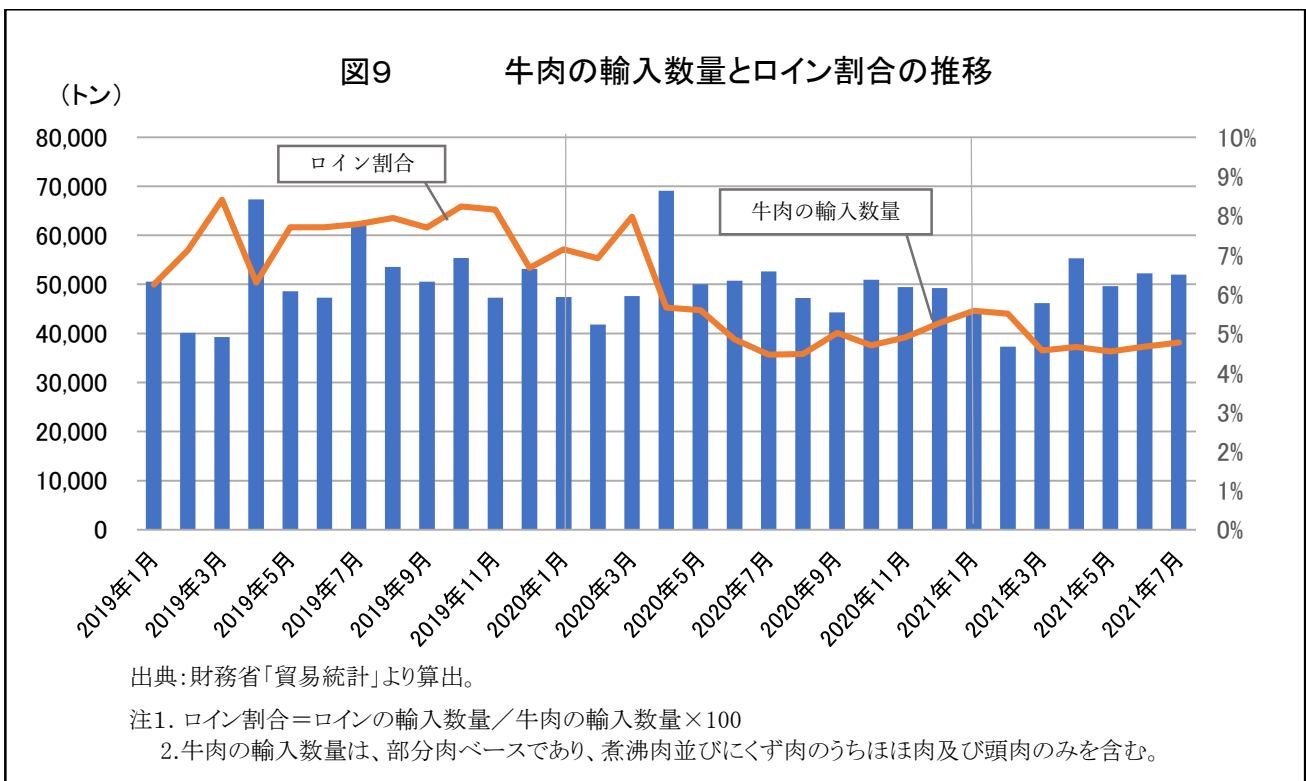


表3 牛肉の輸入数量

(単位:トン)

	2019年	2020年	2021年1～7月
	輸入数量	輸入数量 (前年比)	輸入数量(前年1～7月比)
牛肉全体	615,461	600,314 (97.5%)	336,642 (93.7%)
うちロイン	45,891	33,322 (72.6%)	16,350 (75.7%)
うちロイン以外	569,570	566,992 (99.5%)	320,293 (94.9%)

出典:財務省「貿易統計」より算出。

注. 部分肉ベースであり、煮沸肉並びにくず肉のうちほほ肉及び頭肉のみを含む。

2 ロイン・ロイン以外／上位輸出国別でみた牛肉輸入の動向

牛肉輸入について、冷蔵・冷凍／ロイン・ロイン以外に分け、さらにそれぞれを2020年上位3輸出国の実績について、2019年から直近まで年次単位で表にまとめ、比較しました。

(1) ロインの輸入動向

冷蔵ロインの輸入数量は、ロイン全体の85%(2020年)を占めていますが、その数量は2020年は前年比73.9%、2021年1～7月は前年同期比73.8%と前年を下回る状況が続いています。冷凍ロインの輸入数量は、2020年は前年比66.1%、2021年1～7月は前年同期比86.2%と冷蔵ロインよりも大きな減少割合となっています。

また、冷蔵ロインで3位(2000年)であるメキシコの2021年1～7月の輸入数量が1、2位の国より大きな減少割合となっています。冷凍ロインでは、1位の豪州からの輸入数量が2020年及び2021年1～7月にそれぞれ前年を大きく下回る状況となっています。(表4、表5)

表4 冷蔵ロインの輸入数量(2020年上位3輸出国)

(単位:トン)

	2019年	2020年	2021年1～7月
	輸入数量	輸入数量 (前年比)	輸入数量(前年1～7月比)
冷蔵ロイン全体	38,254	28,275 (73.9%)	13,472 (73.8%)
① 豪州	21,561	16,428 (76.2%)	7,374 (71.0%)
② 米国	11,763	7,334 (62.3%)	3,724 (77.3%)
③ メキシコ	1,662	1,357 (81.7%)	551 (53.7%)

出典:財務省「貿易統計」より算出。

表5 冷凍ロインの輸入数量(2020年上位3輸出国)

(単位:トン)

	2019年	2020年	2021年1～7月
	輸入数量	輸入数量 (前年比)	輸入数量(前年1～7月比)
冷凍ロイン全体	7,636	5,047 (66.1%)	2,878 (86.2%)
① 豪州	3,848	2,223 (57.8%)	845 (62.4%)
② 米国	1,052	1,352 (128.5%)	878 (92.4%)
③ ニュージーランド	2,121	1,097 (51.7%)	894 (126.5%)

出典:財務省「貿易統計」より算出。

(2) ロイン以外の輸入動向

ロイン以外の輸入数量は、2020年において冷蔵と冷凍の割合が4:6となっています。

ロイン以外の輸入数量については、2020年にロインが大きく減少したのに対し、冷蔵ロイン以外はずかには前年を下回り(2000年前年比98.7%)、冷凍では前年並(同100.3%)とコロナの影響は小さなものでした。2021年1～7月では、冷蔵ロイン以外は前年を上回り(前年同期比104.3%)、一方、冷凍はかなり下回る状況(同88.3%)となっています。

輸出国でみると、冷蔵ロイン以外では、2位(2020年)の豪州の輸出数量が2020年及び2021年1～7月に減少する一方、1位の米国と3位のカナダは2021年1～7月に増加しています。また、冷凍で1位の豪州は、冷蔵と同様に2020年から減少が続いています。

表6 冷蔵「ロイン以外」の輸入数量(2020年上位3輸出国)

(単位:トン)

	2019年	2020年	2021年1～7月
	輸入数量	輸入数量 (前年比)	輸入数量(前年1～7月比)
冷蔵ロイン以外全体	235,736	232,565 (98.7%)	144,505 (104.3%)
① 米国	114,363	117,230 (102.5%)	78,496 (113.7%)
② 豪州	103,560	97,747 (94.4%)	51,736 (87.4%)
③ カナダ	10,216	9,359 (91.6%)	7,560 (129.7%)

出典:財務省「貿易統計」より算出。

注. 部分肉ベースであり、枝肉、骨付き肉、煮沸肉及びくず肉を含まない。

表7 冷凍「ロイン以外」の輸入数量(2020年上位3輸出国)

(単位:トン)

	2019年	2020年	2021年1～7月
	輸入数量	輸入数量 (前年比)	輸入数量(前年1～7月比)
冷凍ロイン以外全体	332,008	332,966 (100.3%)	174,975 (88.3%)
① 豪州	151,057	145,564 (96.4%)	77,020 (88.3%)
② 米国	112,669	127,860 (113.5%)	56,598 (76.7%)
③ カナダ	31,890	28,071 (88.0%)	17,242 (113.9%)

出典:財務省「貿易統計」より算出。

注. 部分肉ベースであり、枝肉、骨付き肉、煮沸肉及びびくず肉を含まない。

V 牛肉輸出の動向

コロナの影響が続く中で、食肉事業者からは、国内で荷動きのよくない和牛のロインについて、輸出が国内の需給調整機能を果たしているとの声が多く聞かれるようになっていきます。そこで今回は、牛肉の輸出について、ロインとロイン以外の動きという視点で調査をしました。

1 牛肉輸出、特にロイン輸出の動向

我が国の牛肉の輸出数量は、コロナの影響が出る前の2019年は順調に伸びて前年をかなり上回りました(前年比121.9%)。2020年に入ると世界の経済活動にコロナの影響が出はじめ、同年5月までの間、輸出数量は減少に転じ、特にロインが大きく減少しました(2020年1～5月前年同期比 牛肉全体78.9% ロイン65.2%)。

その結果、この間の牛肉輸出数量に占めるロイン割合は低下しました(ロイン割合:2019年10月64.1% → 2020年1月53.9% → 同年4月44.3%)。

2020年後半になると牛肉輸出は回復傾向に向かい、特に2021年3月以降、ロインを中心に大きく伸び、ロイン割合は上昇しました(ロイン割合:2021年7月64.0%)。

(図10、表8)

2021年1～7月のロインの輸出数量をみると、前年同期の2倍を超える2,363トンとなっており、この数量は国内のロイン系供給数量に対し2割程度を占める水準になっていると推測されます（参考試算）。

これは、食肉事業者の荷動きのよくない国内の和牛ロインの需給改善に寄与しているという声に符合する状況と言えます。

【参考試算】和牛ロイン系生産量に占める輸出割合

2019年 13% → 2020年 12% → 2021年1～7月 19%

※輸出割合＝ロイン輸出数量／推定和牛ロイン系生産量

試算の前提

- ・輸出されたロインはすべて和牛と仮定。
- ・推定和牛ロイン系生産量＝和牛枝肉生産量（「食肉流通統計」）×0.7（部分肉歩留）×0.14（ロイン系の構成割合）

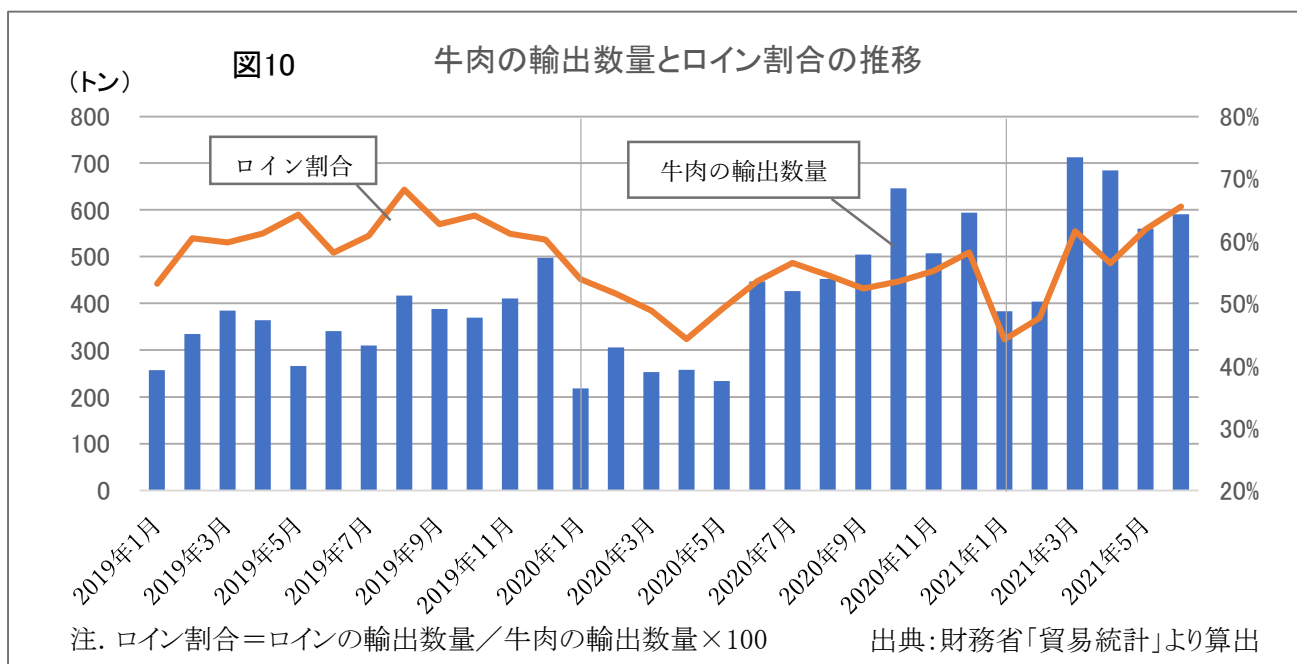


表8 牛肉の輸出数量

(単位:トン)

	2019年	2020年	2021年1～7月
	輸入数量 (前年比)	輸入数量 (前年比)	輸入数量 (前年1～7月比)
牛肉全体	4,339 (121.9%)	4,844 (111.6%)	4,025 (188.1%)
うちロイン	2,664 (131.9%)	2,590 (97.2%)	2,363 (213.4%)
うちロイン以外	1,675 (108.8%)	2,254 (134.6%)	1,662 (160.9%)

出典：財務省「貿易統計」より算出。

注. 部分肉ベースである。

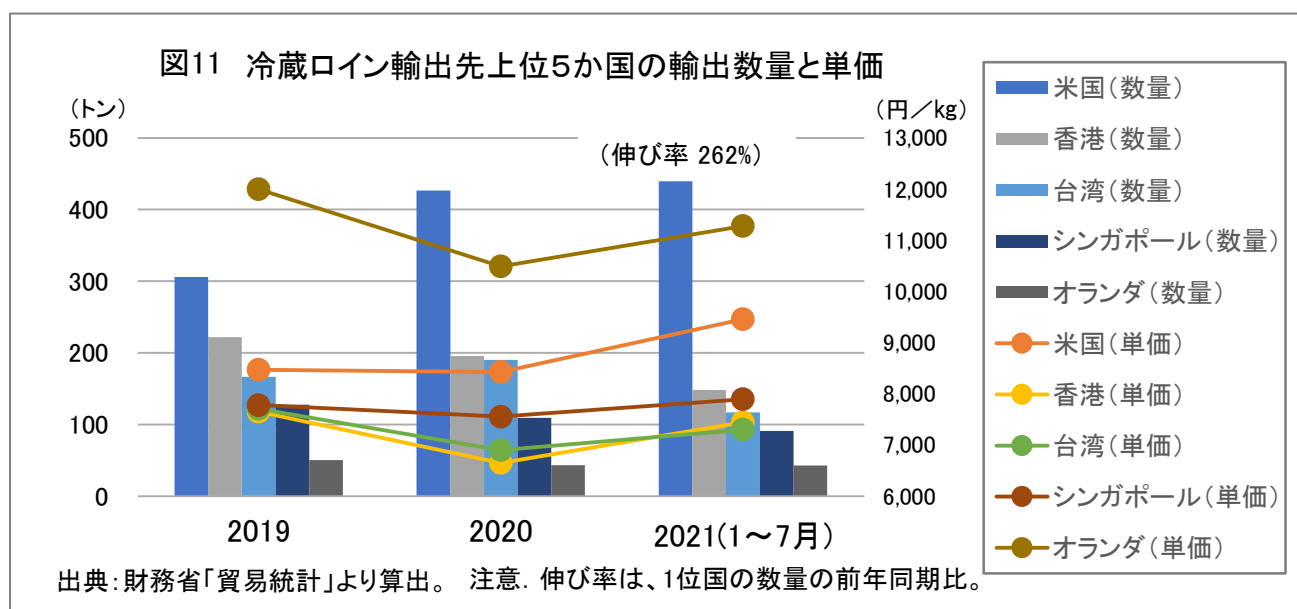
2 冷蔵・冷凍／ロイン・ロイン以外／輸出先国別でみた輸出数量及び単価の動向

(1) 冷蔵ロイン

冷蔵ロインの輸出数量及び単価について、輸出先上位5か国（2020年）の2019年、2020年及び2021年1～7月を比較しました（図11）。

1位の米国向け輸出数量は、2021年1～7月に前年比262%、439トンと上位5か国の中で最も大きく伸びて、すでに前年の年間数量427トンを上回っています。

冷蔵ロインの輸出単価は、冷凍よりも高い傾向となっています。上位5か国間の比較ではオランダ向け・米国向けが高く、香港向け・台湾向けは低い単価となっています。また、2021年1～7月の平均輸出単価は、各国とも前年を上回っています。



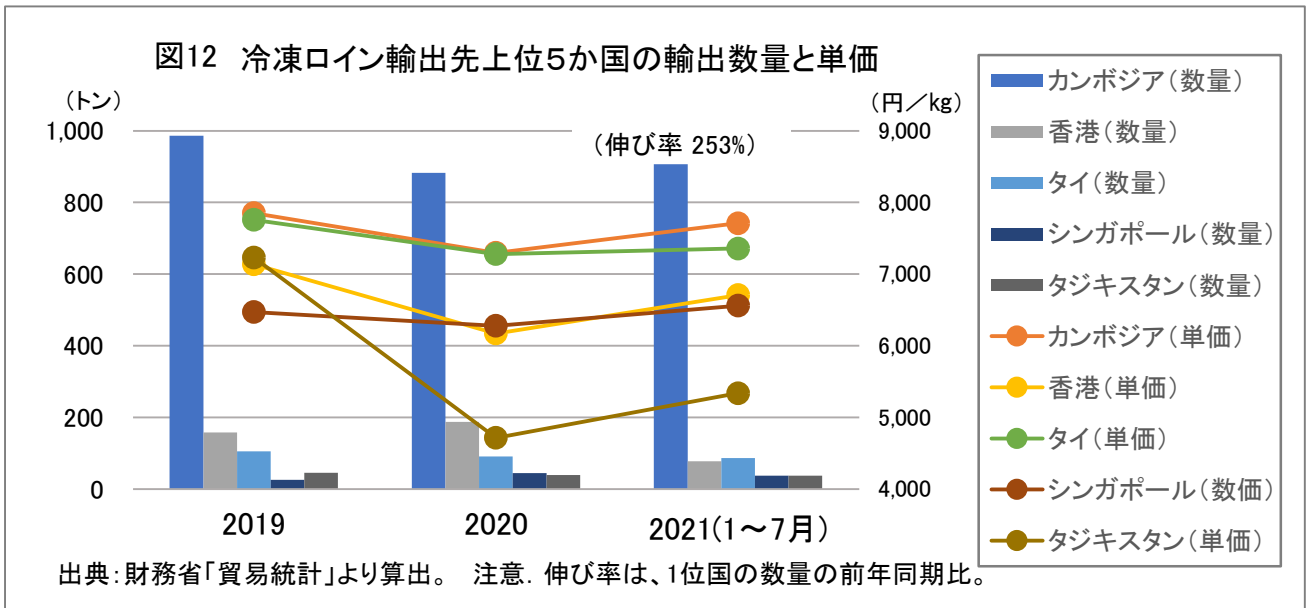
(2) 冷凍ロイン

冷凍ロインの輸出数量は、1位（2020年）のカンボジア向けが6割強（2020年）を占めており、同国向けは、2021年1～7月には同国向け輸出数量は前年同期比253%、906トンと大きく伸びて、すでに前年年間数量882トンを上回っています。

同期においては、上位5か国で唯一香港向けが前年同期比73.4%と前年を下回り、他の4か国は前年を大きく上回っています。

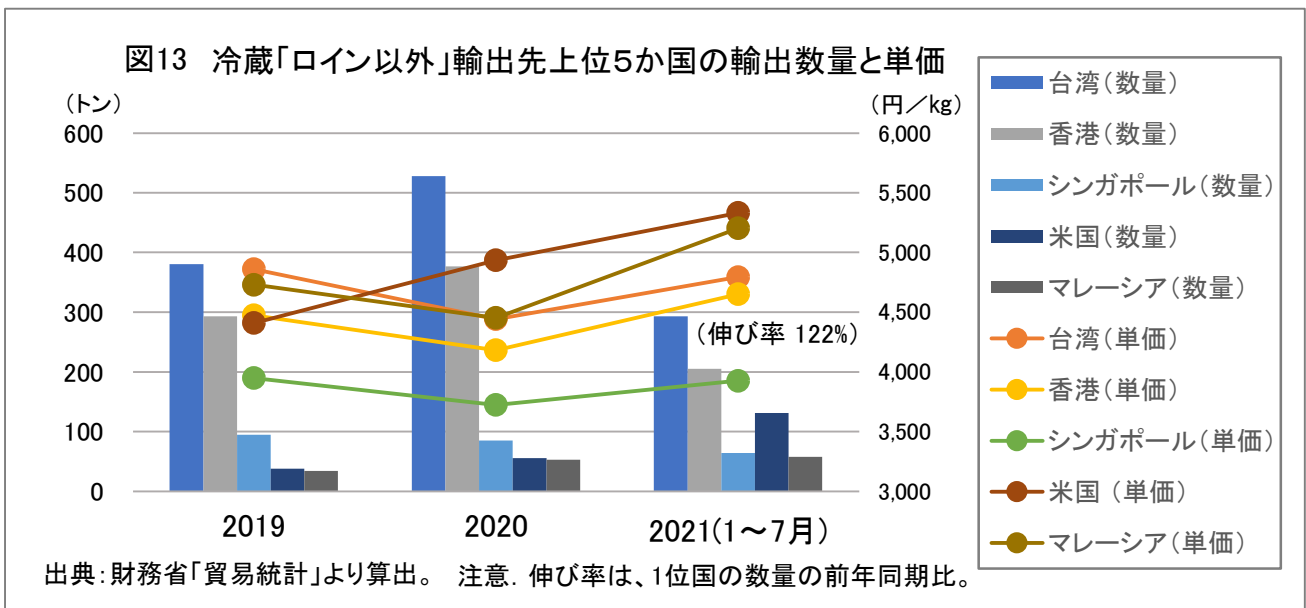
2020年と2021年1～7月の平均輸出単価について上位5か国間で比較すると、カンボジア向けとタイ向けが高く、続いて香港向けとシンガポール向け、そしてタジキ

スタン向けが最も低くなっています。また、2021年1～7月単価は、各国とも前年を上回っています。(図15)



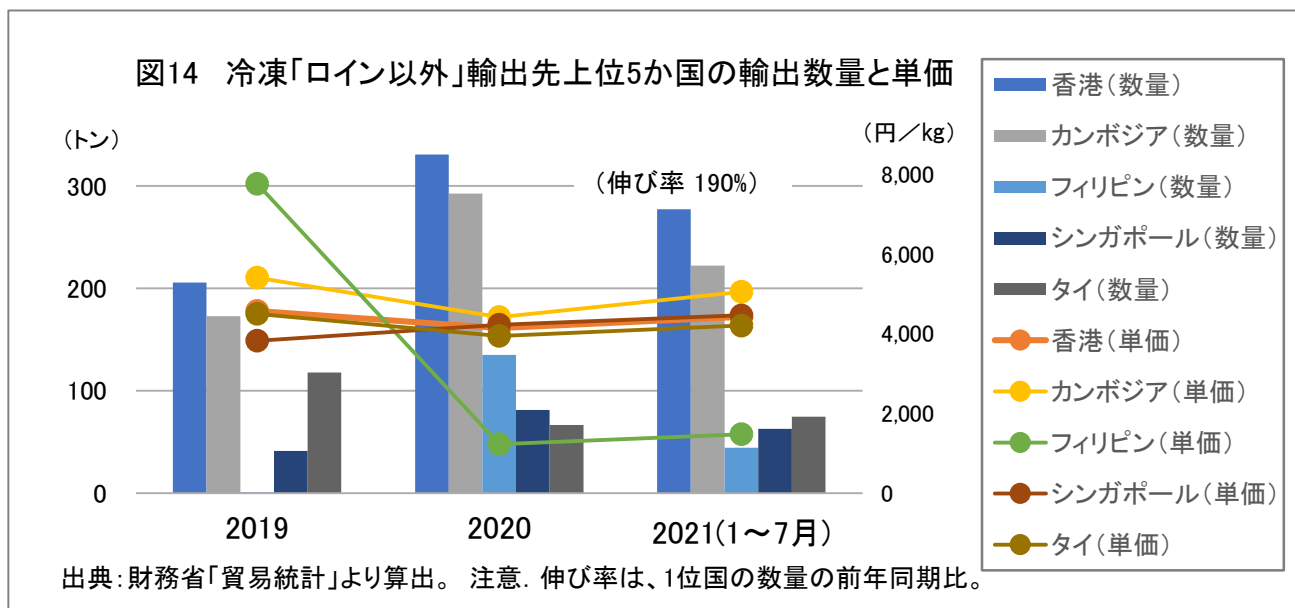
(3) 冷蔵ロイン以外

冷蔵ロイン以外の輸出数量についてみると、2020年では1位の台湾向けと2位の香港向けで全体の8割近くを占める状況となっていますが、4位(2020年)の米国向けが2021年に入り大きく伸びています。(2021年1～7月の輸出数量の前年同期比 台湾 122% 香港 103% 米国 658%)。(図13)



(4) 冷凍ロイン以外

冷凍ロイン以外の輸入数量についてみると、2021年1～7月は、3位（2020年）のフィリピン向けが減少（前年同期比60%）しているのを除いて、他の4か国向けは、いずれも大きく前年を大きく上回っています（前年同期比 香港190% カンボジア147% シンガポール216% タイ225%）。（図14）



(以上)

(問合せ先)

公益財団法人日本食肉流通センター

情報部 小野 雄平

TEL : 044-266-1172